

『史談の広場』

佐伯の晩秋

中林幸夫

(会員・香川県綾歌郡国分寺町)

城山照らす 満月を  
ひとりて仰ぐ さみしさは  
思えば独歩の 頃となる  
誰を待つのか 落葉ふみ  
詩人の読みし 城に行く

端九郎

(タンクロウは私のペンネームです。)

城山黒く 夕焼けて  
あかねの雲は 思い色  
山際通り 人恋し  
誰を待つのか 秋桜は  
優しさいっぱい 風に揺れ

番匠流るる 川風は  
冬への思いの 旅だちか  
何に別るる 空しさか  
誰を待つのか 柿の実は  
重い希望に 熟れし日や

